LS 研　2021 年度短期研究分科会　研究テーマ概要

No.	短期研究分科会テーマ
1	機械翻訳の実力に関する調査研究
2	プロセスマイニング技術による現行業務やシステムの可視化技法に関する研究
3	サイバー脅威インテリジェンスの収集と活用方法に関する研究

No.1	**機械翻訳の実力に関する調査研究**
研究内容・研究方針 (背景、現状の課題、研究目標・方向性)	【背景】 AI を用いた機械翻訳が実用化されつつある。 【現状の課題】 上記背景の一方で依然誤訳も残っており、セキュリティ面での懸念もある。また音声、テキスト、画像など様々な入力手法に対して、市販のソリューションがどこまで使い物になるかの指標もはっきりしていない。 【研究目標・方向性】 精度、対応言語、入力方法、専門用語対応、コスト、スピード、セキュリティ、必要インフラなど、実用化に際して判断が求められる種々の KPI に対し、現在の市販ツールの実力を調査する。
目標とする研究成果(例)	・機械翻訳に関する市販ツールのベンチマーク
具体的な研究手順(例)	(1)機械翻訳における評価項目を検討する (2)市販ツールの実力を調査する (3)機械翻訳における特徴を抽出する
参加条件 対象部門・クラス・前提スキルなど	・機械翻訳に関わる方、もしくは今後関わる予定のある方 ・機械翻訳に興味・関心がある方

LS 研　2021 年度研究分科会　研究テーマ概要

No.2	プロセスマイニング技術による現行業務やシステムの可視化技法に関する研究
研究内容・研究方針 (背景、現状の課題、研究目標・方向性)	【背景】 DX 推進に向けた現状把握のために、企業は現行業務やシステムの可視化に取り組んでいる。 【現状の課題】 現行業務の可視化には、現場へのインタビューやフィールドワークなどの手法があるが、いずれもピンポイントでの調査であるとともに、調査のたびにコストがかかる。またシステムのブラックボックス化が進み、従来の属人に依るシステム可視化では、調査そのものが立ち行かなくなりつつある。 【研究目標・方向性】 現行業務やシステムを可視化するアプローチの一つとして、システムのイベントログからビジネスプロセスを自動で可視化するプロセスマイニング技術が注目されている。 プロセスマイニング技術の先行事例を調査し、活用の目的、観点、手法、活用時の課題などを体系的に整理する。なお、ビジネス価値の創出に向けて、経営の視点(例：ICT のビジネス価値)や業務の視点(例：プロセス効率化)も考慮する。
目標とする研究成果(例)	・プロセスマイニング技術を用いた業務/システムの可視化技法
具体的な研究手順(例)	(1)プロセスマイニング技術および事例を調査する (2)技術の目的、効果、活用時の課題等を整理・体系化する (3)プロセスマイニング技術を用いた業務/システムの可視化技法を検討する
参加条件 対象部門・クラス・前提スキルなど	・業務の ICT 化に関わる方、もしくは今後関わる予定のある方 ・プロセスマイニング技術に興味・関心がある方

No.3	サイバー脅威インテリジェンスの収集と活用方法に関する研究
研究内容・研究方針 (背景、現状の課題、研究目標・方向性)	【背景】 ランサムウェアやフィッシング攻撃といった、被害による経営インパクトが著しいサイバー攻撃が増加傾向にある。 【現状の課題】 複雑化かつ多様化するサイバー攻撃に対して、予防策および実際に疑わしい事象が発生した際の調査・対応の仕方がわからない。 【研究目標・方向性】 サイバー脅威インテリジェンスへの理解を深め、先進の活用事例を調査する。その上で費用対効果を前提として、インテリジェンスの収集および活用手法を研究する。
目標とする研究成果(例)	・サイバー脅威インテリジェンスの収集および活用方法
具体的な研究手順(例)	(1)サイバー脅威インテリジェンスとは何かを調査する (2)サイバー脅威インテリジェンスの最先端の活用事例を調査する (3)費用対効果に見合う情報収集方法を調査する (4)収集した情報の有効活用方法を検討する
参加条件 対象部門・クラス・前提スキルなど	・セキュリティ業務に関わる方、もしくは今後関わる予定のある方